

BA

2015年  
夏号

あなたの言ってることが  
わからない

高橋源一郎・小野正剛  
常岡浩介・ヤマザキマサト  
山田真由子・梶山陽子・徳野高  
松田有子・山田真由子・徳野高  
松田有子・山田真由子・徳野高

ISBN:978-4-480-99304-5  
定価：本体1,400円＋税

2015年  
春号

悪徳超道徳

東浩紀  
角田光代  
川上未映子  
藤井光  
ヤマザキマサト  
堀江敏幸  
市川真人  
鈴木大介・中野  
千葉雅也・黒谷沙・羽

ISBN:978-4-480-99303-8  
定価：本体1,300円＋税

2014年  
冬号

文

悪徳超道徳

東浩紀  
角田光代  
川上未映子  
藤井光  
ヤマザキマサト  
堀江敏幸  
市川真人  
鈴木大介・中野  
千葉雅也・黒谷沙・羽

ISBN:978-4-480-99302-1  
定価：本体1,400円＋税

【特集】新しい古

発行：早稲田

# 「わたしの恐怖をみなければならぬ」

——現代日本における「慰安婦」証言の受容

三宅美千代

言葉が命がけて発せられるとき、言葉が血を流しているとき、どのようにそれらの言葉とともにあることができるだろう。とりわけ、息を殺して耳をそばだてるわたしと、苦悶に顔をゆがめ、流れおちる涙にもかまわず、瘦せた身体から言葉を振りしぼるあなたが過去の暴力の構図を再現してしまうとき。それらの言葉が何度でも必要とされなければならない責任の一端がわたしにあるとき。それは生存のための記憶喪失に手をつつこんで、言語化を阻もうとする生の作用に抗い、記憶の肉塊をえぐり出す作業となる。証言する者とそれを受けとる者。そのとき、わたしはあなたとのどのような関係を生きるの

旧日本軍の「慰安婦」となった女性たちの証言の存在が公に知られるようになった

九〇年代以降、戦争をめぐる人びとの認識は変容と再検討を迫られた。日本社会で広く共有されてきた戦争のイメージは、原爆、東京大空襲、沖縄戦の生存者によって語られた話に基づくものであり、それは戦争の残酷さと平和主義の重要性を伝える語りとして継承されてきたが、いわゆる従軍「慰安婦」証言は、日本の学校教育、マスメディア、文化活動において第二次世界大戦が話題になるとき、敢えて触れられることのない記憶の領域が存在するという事実を人びとに突きつけた。

このプロジェクトは、日本社会における「慰安婦」証言の受容を検討し、戦後世代が帝国時代の日本軍兵士の残虐行為や戦争

犯罪を語る言葉にどのように耳を傾けてきたかに焦点をあてる試みである。歴史的事実に対する個人の反応、過去の植民地支配とその記憶との向き合い、それらを家族や共同体単位で継承してきた戦争記憶との関連性のなかでいかに受容しうるのかを、その多様性を含めて明らかにすることを目指している。プロジェクト全体は、散文詩、「慰安婦」証言に触れた経験をもつ方々への取材、日誌から構成されているが、以下は、本稿のために編集したインタビュー・スクリプトの抜粋である。

「わたしの恐怖をみなければならぬ」

RS (医療系専門職)

「慰安婦」の「慰安」って言葉は、慰安旅行とか言うくらいだから、べつにそれ自体は性的な表現ではない。だから「慰安婦」が問題って言われて、「なんで『慰安婦』が問題になってるんだろう」って思った。ただ、そのときは高校生くらいだったから、なんとなく「ああ、そういうことか」と察知した。「『慰安婦』って何？」ってママに聞いてはいけないんじゃないかっていう雰囲気を感じとっていた。

KO (文学部教授)

〔女たちの戦争と平和資料館の〕入口に並んでいる証言者の写真を見ていた。もうみんなおばあさんになった顔だけど、ちよつと今のうちのおふくろに似ている人もいるしね。若い頃はみんなきれいだっただろうな。知覧の特攻平和会館に行ったときも、飛び立った兵士たちの写真がたしかあんなふうに並んでいたと思う。いや、あそこは名前がずらつと書いてあったかな。あのとさもやっぱり言葉は出ないわね。見ていくだけかな……。こういう経験をされた人の前に立つと、何を言っても空々しい。そういう気持ちのほうが強くてね。気の毒だなと思うけど、「気の毒」という言葉も軽いでしょ？ でも、ほかにどんな言葉が出

存在しなかった。だから、「彼らからすれば」説明することがないのでしょ。

JW (会社員)

てくるのか。

SK (歌手)

声を聞くことって、すごく大切なことだと思う。(略) ハルモニ(韓国の証言者イ・ヨンスさんのこと)が発した声はどこかでずつと残っているし、彼女の名前はずつと記憶していた。ただ、自分が、彼女の証言とどう向き合っていくかという問題は、たぶんずつと……自分のなかのあまり居心地がよくないところも含めて、たぶんずつとあるんだろうな、という気がしている。

MM (語学講師)

私の心をもつとも揺さぶったのは、慰安所に吊り下げられた、女性たちの名前を記した木札の写真。ある本に載っていたもので、戦争時代に撮影された写真資料だと思うが、木札に墨で黒々と日本の女性の名前が書かれてあった。(略) 私の名前もたまたまその写真のなかに見つからなかっただけで、数多くあった日本軍慰安所のいづれかにいた女性が私と同じ名で呼ばれていたであろうことが想像できました。「私」の名前を彼女たちに与えたのは一体誰なのか？ と疑問に思うと同時に、すごく怒りが湧いてきた。「慰安婦」制度をつくって運用した人間に対する怒り、それを当たり

前のものとして受け入れた人間に対する怒り、それからもちろん、女性たちの性を蹂躪し、名前を奪い、性奴隷の状態につなぎとめたことに対する怒り。

AVLM (ポルトガル語講師、ブラジル出身)

支配する側の人間にとって、犠牲者は無であり、「モノ」なのです。だから、壊れるまで酷使したり、捨てることができる。彼らはそのように感じているから、赦しを請うたり、実際に何が起こったのかについての説明は不要だと考えるのでしょう。支配された側の人間にとっては、支配者はそのような力のゲームの一部を為しています。このゲームには基本的、かつ自然な法則があつて、それは権力がある場所には隷属があるというものです。(略)

さまざまな国籍をもつ女性たちは、街路で偶然に選り出されました。狩りのようなものです。支配する者たちにとって、女性たちは人ではなかった。彼らは敵のなかに人間らしい側面を見出すことはなかったし、この場合、女性たちは敵の資格により分類されたのでもありません。単純に、彼女たちは戦争で使用される「モノ」でした。必需品であり、品物でさえあつたのです。現在の多くの政治家にとっては、残虐行為は

母親はものすごくむきになる。べつにお

母さんを責めているわけじゃない。彼女を

傷つけようとしているわけでもないし、彼

女が……と言つて……

話題作・問題作満載の月刊文芸誌

すずぽる

前に立つと、何を言っても空々しい。そういう気持ちのほうが強くてね。気の毒だなと思うけど、「気の毒」という言葉も軽いでしょ？ でも、ほかにどんな言葉が出

存在しなかった。だから、「彼らからすれば」説明することがないのでしょ。

JW (会社員)

当時、女の人ってその程度のものと思われなかったんだなと思った。その問題は、姿をかえて形をかえて、今の世の中にも根づいている。だから、「議会での」ヤジ問題なんか起こるんじゃないかな。同じだと思う。そういうDNAが根づいているのかなと思っちゃった。だから、女性の社会進出だの、子供を産む産まないだの、そんなことを言ったって、一朝一夕には変わらないんじゃないかな。「慰安婦」問題について得た知識が、自分のなかでそんなふうにつながっていた。

RN (契約社員)

みんなの見解がすごく分かれるトピックだから、私はどちらかというと、例えば男性たちがあからさまに「従軍『慰安婦』なんていかなかったよ」なんて話をしていたら、たぶん黙りこくって、それに反論しようとも思わないかもしれない。それくらいみんながむきになってしまおうトピックだから、それについて「私はこういうふうと考えています」って表明すること、それだけで挑戦だなと思う。(略)

名前を彼女たちに与えたのは一体誰なのか？ と疑問に思うと同時に、すごく怒りが湧いてきた。「慰安婦」制度をつくって運用した人間に対する怒り、それを当たり

母親はものすごくむきになる。べつにお母さんを責めているわけじゃない。彼女を傷つけようとしているわけでもないし、彼女がやったと言っているわけでもない。ただ、事実としてそういうことがあったという話をしていただけなのに、個人的な話に触れてしまったのかな、と思うくらいに、むきになっちゃうんだよね。(略) 向こうが感情的になるから、こっちも煽られて感情的になってしまう。母親とご飯を食べているときに、日韓とか中国とか、尖閣諸島のニュースがでるたびに、息をひそめているもん。「母親が何も言いませんように。私がそれについて何も思いませんように」って。

YI (大学院生・韓国出身)

彼は性奴隷制度の事実を本当に否定していました。真実ではないと彼は考えていました。「感情的に反応するな」とも彼は言いました。私の反応が感情的だと思ったのです。彼は「ロジカル」に議論をしたかったようでした。

結局、彼の意見は、植民地支配であれ「慰安婦」であれ、当時の状況をみるいろんな視点や事例があるので、「一部」をみて間違つたと判断することは難しいというものでした。私は始終一貫した話をした

この場合、女性たちは敵の資糧により分類されたのでもありません。単純に、彼女たちは戦争で使用される「モノ」でした。必需品であり、品物でさえあったのです。現在の多くの政治家にとっては、残虐行為は

話題作 問題作満載の月刊文芸誌

# すまげぼる

特集

## 戦争を、読む

●ロングインタビュー

古井由吉

しぶとく生き残った末裔として  
聞き手 富岡幸一郎

●エッセイ

林京子 加藤典洋

堀江敏幸

●対談

いとうせいこう

陣野俊史

坂口安吾について

中島岳志

浜崎洋介

福田恆存を読む

●インタビュー

大岡昇平「野火」を映画化……

塚本晋也

聞き手 藤田直哉

ほか

ホームページ <http://subaru.shueisha.co.jp/>

ツイッター [http://twitter.com/subaru\\_henshubu](http://twitter.com/subaru_henshubu)

月号 集英社 8月6日(木)発売/定価950円 ※内容は一部変更になる場合があります。

「わたしの恐怖をみななければならぬ」

けれど、結局それも多くの話の中の一つになつてしまい、だからそれを認めることはできないと彼は言います。(略) 私にはむしろ、彼の主張こそがごく「一部」の話だと思われまゝ。「慰安婦」は日本政府が大々的にそして戦略的に推進した政策であり、重大な犯罪でもあります。それを回避したい気持ちがいろんな言い訳を作り出しているのではないか。それが本場に「ロジカル」なのか私は疑問を感じます。物事に対する様々な見方がありますが、そこにも是非をわきまえる基準というものがあるのです。

MK (主婦)

「慰安婦」問題に」関心はあつたんです。あつたんですけど、私は広島出身で、原爆のことがありますよね。広島の原爆資料館なんかは、当然、子どもの頃に何回かみたことがあるんですけど、やっぱり衝撃で、「知らなければいけない」という気持ちと「知るのが辛い。避けておきたい」という気持ちがあつて、大人になつてからは、「あの資料館に絶対に行けない」という状態になつてしまつていて……。あの建物をみただけで、「あそこにはもう入れない」という感じになつてしまつています。(略)

「慰安婦」問題も、自分のなかでは、原爆

かな。ナシヨナリズムつてそういうつまらない話よ。ワールドカップで日本がけちよんけちよんに負けると、どういふことが報道されるかというと、「日本人サポーターが一生懸命ゴミを拾っています。日本人と

の話と同じで、ちゃんと理解をしなければいけないけど、なるべく避けてきたんです。(略)「原爆については、あるNHKのドキュメンタリーを」たまたま何年前にみたときに、やっぱりこれは全部を見尽くすといふか、知らなければいけないと、恥ずかしいんですけれども、初めて思つたんですね。こういうことが実際、本場にあつたわけですから。そして、自分もその線上に生きていくわけですよ。広島原爆のこと、被爆された人たちの気持ち、同じラインではもちろん知りえないんですけど、事実として知る(必要がある)。蓋をして通れないといふか。同じ立場にはたてないけれども、知ることが自分に唯一できることと。「慰安婦」問題についても、ずっとそういう感覚で生きて……。:

KS (会社員)

僕も「慰安婦」がいる、いないという話になると、全然詳しい話を知らないのですが、感覚的なことになつちやうんですけど、普通に理屈で考えれば、そういう存在つて必要だと思ふんですよ。男が何万人もいて、欲求を満たすためにはそういう存在つて必要なんだろうなと思つていて。あと、わざわざみずからそういう被害に遭いましたと話するのはなかなか勇気の要ることじゃない

人たちを強制的に連れてきたんじゃないで、貧しい家の子たちが商売のために連れてこられた」とか、そういう情報の方をついて見まして、そつちのインパクトの方が強く残つちやうんだよね。

ですか。それ(を話すこと)になにか得があるとも思えないので。なんとなく感覚ではあるんですけど。

ET (主婦)

当時は日本人も貧しくて、日本の国なかでも(身売りがあつた)。日本が貧しかったときは、親が子供を売つたりもした。そういうことを考えると、この人がどういふ経緯で「慰安婦」になつたにしろ、今さら政府が補償しろと言われたつてできない。これを言うとき冷たいようだけれど、その時代にそういう環境に生まれてしまつたのはアキラッキーだったのかなあと思ふ。若い人は覚えていないだろうと思ふけれど、日本にも、からゆきさん、吉原、「おしん」の世界、「姨捨山」も有つたのだから、そういう話をいちいち掘り下げていつたら、なにも立ち行かなくなつてしまう。

AS (団体役員)

従軍「慰安婦」とか南京大虐殺とか、その領域に入つてくると、戦争とセックスというのはタブー中のタブーなんだよ。ましてや(略)加害者(側の立場)なんだから。それに関しては、ナシヨナリズムといふか、日本はそんなことをする国じゃないんだという気持ちを持ちたい人が多いんじゃない

共通基盤をつくるのが重要になつた。書くという行為を他者との出会いや対話の場として実現しようとしたら、それこそがこの問題を取り巻く現状に相応しい試みではないかと考えている。

態になってしまっていて……。あの建物をみただけで、「あそこにはもう入れない」という感じになってしまっている。(略)

「慰安婦」問題も、自分のなかでは、原爆かな。ナシヨナリズムってそういうつまらない話よ。ワールドカップで日本がちょんけちょんに負けると、どういことが報道されるかというと、「日本人サポーターが一生懸命ゴミを拾っています。日本人とはこういう国民性をもったいい国民なんです」。私は批判的に眺めていたけど、人はそういうところに救いを求める。

#### MS (放浪者)

一般論として、人間って誰でもそうだと思うけど、自分とか自分の身内が被害にあったことにはすごく同調できる。狭い範囲で言ったら自分の家族、広い範囲で言ったら自分の国民には同調できる。でも、自分たちが誰かに危害を加えたとして、その相手側の辛さには共感できないんだと思う。(略) どうしても自分の家族が相手を殺害した理由を見つけようとしてしまうんだよ。(略)

だから、戦争中に、自分の身内であるおじいさんがしたこと、家族がしたこと、せいで泣いている人を見て、すごく申し訳ないって思うけど、「国には逆らえないし、おじいさんもそうするしかなかったんだよ」という感情の方が強く出ちゃうんじゃない？(略) 「他の国も戦争のときには同じことをやっていた」とか『慰安婦』の

欲求を満たすためにはそういう存在って必要なんだろうなと思っていて。あと、わざわざみずからそういう被害に遭いましたと話すのはなかなか勇気の要ることじゃない

人たちを強制的に連れてきたんじゃない、貧しい家の子たちが商売のために連れてこられた」とか、そういう情報の方を見つけてしまっ、そっちのインパクトの方が強く残っちゃうんだよね。

#### HS (弁護士)

彼ら(兵士たち)が(戦争の残酷な側面について)沈黙することを選んだのかどうかはわからない。でも、理屈の上では、人間は自分の関わった悪事について、とくに愛する人たちには話したくないものだ。自分に対する彼らの見方が変わってしまうかもしれないから。

テキストの作成にあたり、作業過程を回答者たちとの共同作業の場として立ちあげたことを心がけた。このような着想は、複数の回答者が信頼できる情報を探すことの難しさを語ったことから生まれた。実際、日本政府はメディアへの統制を強めているほか、ネット空間を用いた修正主義者の宣伝活動は勢いを増しており、回答者たちがそのように考えるもつともな理由がある。そこで、資料を共有して内容について意見を交わし、歴史的事実に関する知識の

てや(略)加害者(側の立場)なんだから、それに関しては、ナシヨナリズムというか、日本はそんなことをする国じゃないんだという気持ちを持ちたい人が多いんじゃない

共通基盤をつくることが重要になった。書くという行為を他者との出会いや対話の場として実現しようとしたら、それこそがこの問題を取り巻く現状に相応しい試みではないかと考えている。

証言者たち、沈黙することを選んだ者たち、出来事がかえもつすべての者たちへ。  
「わたしの恐怖をあなたはみなければならぬ」とあなたは言った。  
わたしにはそれをみる用意があるだろうか。

「わたしの恐怖をみなければならぬ」